令和7年度　文部科学省委託事業

「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
（人口減少地域の職業人材を確保するための
専修学校振興プログラム）
[人口減少地域の職業人材を確保するための
専修学校の教育モデル開発]

委託事業全体成果報告書
成果物
「先行事例研究調査」

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、≪学校法人イデア熊本アジア学園イデアITカレッジ阿蘇≫が実施した令和7年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

学校法人イデア熊本アジア学園
イデアITカレッジ阿蘇

②地方創生×IT・AI活用　先行事例調査

・「地方創生の課題解決 × IT・AI活用」教育において、同様のカリキュラムを実施している教育機関、行政機関、民間企業等について事例研究を行い、その実態を把握する。掛け合わせは少ないので、各テーマの事例とする。　7件

1. 調査目的

本調査は、「地方創生の課題解決×IT・AI活用人材養成プログラム」の開発にあたり、先行して取り組んでいる教育機関（大学・専門学校）の事例を分析し、本科生（学生）および社会人への提供を目的とした実効性の高いカリキュラム・モデルを構築するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査概要

対象: 日本国内の大学・専門学校

抽出数: 7事例（専門学校を中心に、実務・実装教育に強い事例を選出）

重点調査項目:

AIを「作る・使う」両面のカリキュラム内容

社会人向け・リカレント教育への展開状況

カリキュラムの詳細ステップと地域フィールド活用

連携企業・団体の名称および役割

アントレプレナーシップ・現場デプロイ（実装）の実績

就職・進路実績（地域定着および関連業界への採用状況）

②地方創生×IT・AI活用　先行事例調査

3.先行事例比較一覧（専門学校・大学混合）

実施主体	教育種別	教育の主な方向性	成果・就職実績の傾向	連携企業・団体
京都コンピュータ学院	専門学校	活用×ビジネスプラン	ベンチャー起業2件創出	地元清掃・住宅メーカー
FSGカレッジリーグ	専門学校	活用×事務・サービス	全学生の就職率向上	株式会社dott、地域IT企業
宮崎情報ビジネス医療専門学校	専門学校	開発・活用×地域産業	地元就職率90%・全体95%以上	JA宮崎、県内病院
日本工学院八王子専門学校	専門学校	開発×地域連携PBL	ポートフォリオ活用でIT企業採用	八王子市、地元企業
学校法人麻生塾	専門学校	活用×業務改革支援	AI関連職種への高い内定率	ITスタートアップ(dott等)
久留米工業大学	大学	開発×フィールド実装	発表会で地元企業10社採用決定	広川町、JA、建設業者
北海道大学	大学	活用×行政・政策(EBPM)	連携企業への内定5名	NEC、北海道庁、札幌市

②地方創生×IT・AI活用　先行事例調査

4. 各事例の詳細分析（就職・進路実績を追記）

① 京都コンピュータ学院（専門学校：活用×ビジネス設計）

カリキュラム詳細: AIビジネスプランニングからROI分析までを段階的に学習。

就職・進路実績:

起業支援: プログラムを通じてベンチャー企業が2件誕生。ビジネスコンテスト形式の評価が直接創業につながっている。

主な進路: 既存のIT企業のみならず、デジタル化を推進する住宅メーカーや物流企業のDX担当として採用されるケースが目立つ。

② FSGカレッジリーグ（専門学校：全学科AI活用）

カリキュラム詳細: 福島県内5校の全学科学生（約900名）への生成AI活用教育を標準化。

就職・進路実績:

就職率の底上げ: サービス業や事務職志望の学生が「AIを使いこなせる事務職」として評価され、就職率が向上。

インターン連携: 地域のIT企業との強力なパイプを活かし、東北地方のDX人材として地元企業への採用実績を伸ばしている。

③ 宮崎情報ビジネス医療専門学校（専門学校：産業特化型実装）

カリキュラム詳細: 医療・農業に特化したデジタル化。IoT・AIの現場実装までを網羅。

就職・進路実績:

驚異的な地元定着率: 地元就職率90%、全体就職率95%以上を達成。

主な進路: JA宮崎関連組織、県内基幹病院のシステム部門、地元ITベンダー。産業に特化したスキルが、そのまま地域内での採用力に直結している。

④ 日本工学院八王子専門学校（専門学校：AIシステム開発）

カリキュラム詳細: AIアルゴリズム実装能力に加え、地域課題解決の「プロデュース力」を養成。

就職・進路実績:

成果物による採用: 連携プロジェクトで作成したチャットボットや可視化ツールをポートフォリオとして活用。

主な進路: 大手SIer、都内・多摩地域のIT企業。外部企業連携演習でのプレゼンが評価され、そのままスカウトにつながる事例も。

②地方創生×IT・AI活用　先行事例調査

⑤ 学校法人麻生塾（専門学校：実務改革モデル）

カリキュラム詳細: ITスタートアップと連携した最新AI技術の実務適用教育。

就職・進路実績:

即戦力評価: AIプロンプト最適化やRPA導入などのスキルが評価され、AI関連職種への内定が加速。

地域貢献: 福岡・九州を中心とした企業のDX推進枠での採用実績が豊富。

⑥ 久留米工業大学（大学：開発×フィールド実装）

カリキュラム詳細: AI応用研究所を中心に、いちご仕分けAI等の地域プロジェクトを実施。

就職・進路実績:

ダイレクト採用: 年次成果発表会において、学生の技術力を見た地元企業10社からその場で採用意欲が示され、内定に直結。

主な進路: 自動車関連メーカー、JA、地元建設業、システム開発会社。

⑦ 北海道大学（大学：活用×データ駆動型行政）

カリキュラム詳細: NECの「因果分析AI」を活用した行政課題解決。

就職・進路実績:

産学連携内定: プログラムに参画した学生5名が、連携パートナー企業（NEC等）への内定を獲得。

主な進路: コンサルティングファーム、IT企業、公務員。EBPMスキルの習得が、高度専門職への道を開いている。

②地方創生×IT・AI活用　先行事例調査

5. 阿蘇地域でのプログラム開発への検討

「マッチングイベント」の制度化: 久留米工大のように、実証授業の成果発表会を企業の採用担当者・経営者が直接評価する場とし、そのまま就職・創業支援へと繋げる。

地域定着のための「産業特化型ポートフォリオ」: 宮崎情報ビジネスの例を参考に、阿蘇の「農業」「観光」に特化したデジタル実績を学生に持たせることで、地元企業への採用メリットを最大化する。

起業支援プログラムの統合: 京都コンピュータ学院のように、実証プロジェクトがそのまま「創業」につながるよう、ビジネスプランのブラッシュアップやベンチャーキャピタル等との連携も視野に入れる。

6. 引用文献・情報源

京都コンピュータ学院 IT専門課程: https://www.kcg.ac.jp/

FSGカレッジリーグ×dott 連携プレスリリース: https://thedott.io/news/250604fsgai/

宮崎情報ビジネス医療専門学校 プログラム詳細: https://www.mext.go.jp/content/20220323-mxt_syogai01-000015067_1.pdf

日本工学院八王子専門学校 AIシステム科: https://www.jec.ac.jp/course/ai/

学校法人麻生塾 ニュースリリース: https://asojuku.ac.jp/newsrelease/3867

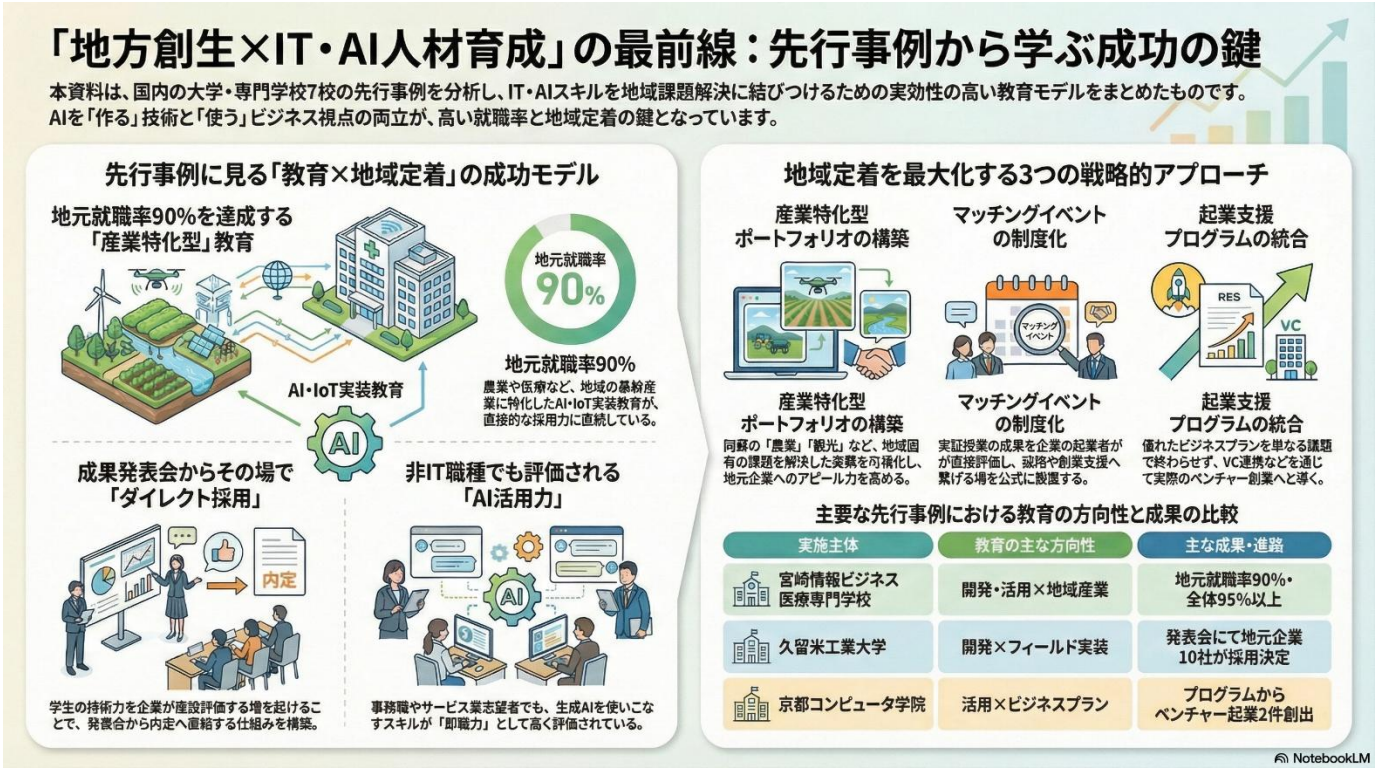
久留米工業大学 AI応用研究所: https://www.kurume-it.ac.jp/aail/

NEC・北海道大学 産学連携事例: https://wisdom.nec.com/ja/feature/government/2024102101/index.html

②地方創生×IT・AI活用　先行事例調査

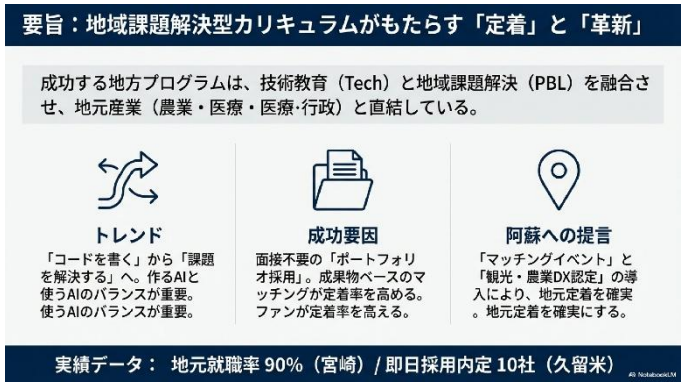
報告書

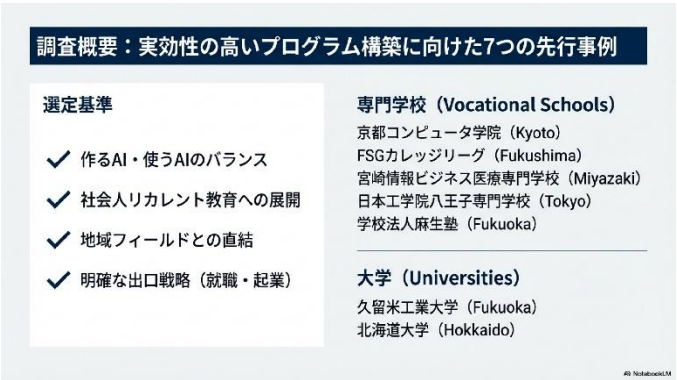
▼全体サマリー

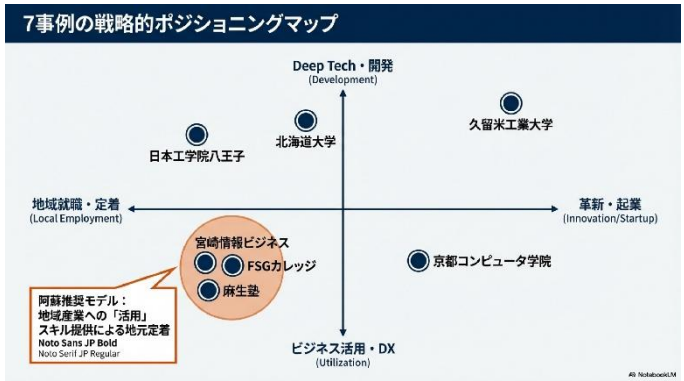


▼詳細報告書









②地方創生×IT・AI活用　先行事例調査

報告書

▼詳細報告書

モデルA【ビジネス活用・起業特化】：コードを書くだけではない「ROI視点」の育成

京都コンピュータ学院（KCG）

ビジネスプランニング＆ROI分析

プログラミング技術だけでなく、ビジネスコンテストを通じた起業家育成に注力。

ベンチャー企業2社創出 / 住宅メーカーDX担当として採用

FSGカレッジリーグ

全学科AI標準化（All-Student AI）

900名の全学生（非IT系含む）に生成AI教育を実施。「AIを使える事務職」として市場価値を向上。

事務・サービス職の就職率向上 / 株式会社dottとの連携

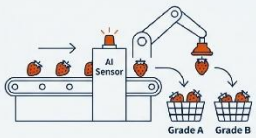
● Point: サービス業中心の地域でも、AIリテラシー教育が雇用を創出する。

モデルB【地域産業実装】：特定業界への特化が「驚異的な地元定着率」を生む

宮崎情報ビジネス医療専門学校	日本工学院八王子専門学校	学校法人麻生塾
医療・農業テックに特化。JAや県立病院と連携したカリキュラム。	「プロジェクト力」重視。学生が作成したチャットボットが評価され、スカウトへ。	RPA・プロンプトエンジニアリングの実務教育。スタートアップ(dott)と提携。
地元就職率 90%	**ポートフォリオ採用**	**即戦力内定**

モデルC【産学官連携・R&D】：大学リソースを活用した「高度課題解決」と直結採用

久留米工業大学



AI応用研究所による「いちご選別AI」や「建設DX」。

成果発表会にて、その場で10社が採用を決定（ダイレクト・リクルーティング）。

北海道大学



NECの因果分析AIを活用したEBPM（証拠に基づく政策立案）。

ＮＥＣＣ等の連携企業へ5名が内定。高度専門職へのパス。

成功要因①　カリキュラム設計：「作るAI」と「使うAI」の最適バランス

阿蘇地域の推奨ゾーン

観光・農業などの非IT産業には、業務知識とセットになった「活用スキル」が即座に貢献する。

作るAI（Making AI）	使うAI（Using AI）
アルゴリズム開発、システム実装	プロンプトエンジニアリング、ROI分析、RPA
例：日本工学院（チャットボット開発）	例：FSG（事務効率化）、京都コンピュータ学院（ビジネス企画）

成功要因②　出口戦略：面接重視から「成果物（ポートフォリオ）評価」への転換

従来型採用

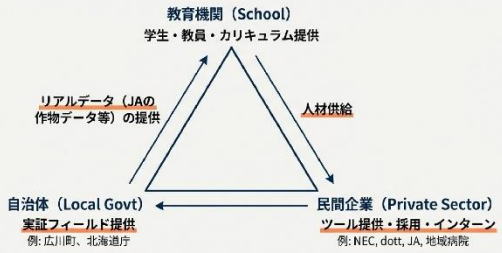
履歴書（Resume） → 面接（Interview） → ミスマッチの懸念（Mismatch Risk）

ポートフォリオ採用

成果物作成（Project Artifact） → デモ発表会（Demo Day） → 即戦力として採用（Direct Hire）

・久留米工大の事例：成績表ではなく、作ったモノ（苺選別機など）を企業が見て、その場で採用を決める。
・八王子専門学校の事例：可視化ツールの完成度を見て、企業が学生をスカウト。

成功要因③ エコシステム：産学官連携による「実証フィールド」の提供



教室の中だけでなく、地域そのものを「教室」化することで、学生の当事者意識とスキルが育つ。

阿蘇地域への提言①：採用直結型イベントと産業特化カリキュラムの導入

マッチングイベントの制度化

従来の就職説明会を廃止し、経営者が参加する「ソリューション・デモデイ」を開催する。

（久留米モデルの踏襲）

産業特化型ポートフォリオ

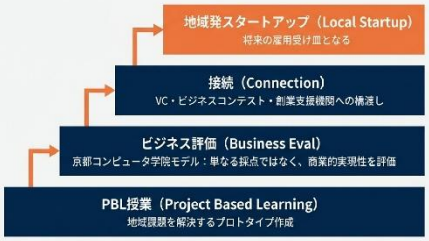
Tourism / Agri

「阿蘇農業DXコース」「阿蘇観光DXコース」を設置し、業界知識とITスキルをセットで証明する。

（宮崎モデルの踏襲）

地元企業が採用する明確なメリット（即戦力性）を作る。

阿蘇地域への提言②：実証実験を「起業」へ昇華させるインキュベーション機能



雇用だけでなく、自ら仕事を作る「起業」も出口戦略の一つに組み込むことで、産業のエコシステムを活性化させる。

②地方創生×IT・AI活用　先行事例調査

報告書

▼詳細報告書

